



イギリス生活とVISA 2

前回のエッセイに引き続き、イギリスでの生活とビザについて、続けさせていただきます。イギリスに渡った当時は、行き当たりばったりの計画性も、お金も、英語力も、ほぼゼロでした。けれど希望に満ちていて、会う人、やることすべてが新鮮でした。渡英して、はじめの頃の生活は、語学学校を見つけて通い始め、The Place 劇場やウエストエンドの劇場でインターシップをさせてもらいながら、合間を縫ってレストランでバイトという感じでした。初めて、海外で自分の住居・フラットを見つけるのは危険と苦労がありましたが、語学学校で仲良くなったトルコ人の友達とルームシェアをして、家賃を最低限に抑えることができました。

私が渡英した2003年はまだ、イギリスは労働党政権でした。保守党サッチャリズムから一変し、イギリスへ来る外国人移住者の数がどんどん膨れ上がってきた時期でもありました。労働党は自由主義経済支持者、ならびに外国人移住者・労働組合を味方につけた政党で知られています。この政権のお陰で、私たち外国人は仕事に、そして勉強に専念できる環境を与えられたわけです。しかし、2010年に労働党から、また保守党に政権が移ると、2005年のロンドンテロ以降の厳しさ以上に、ビザ取得が難しくなっ

てきました。イギリス人の失業者が増えたのは、外国人労働者を沢山受け入れた労働党のせいだ!と保守党は言い出すのです。仕事がない人に手当金をあげて、仕事しなくても生きていける安心感を与え、失業者を増やしたのは、そもそも保守党ではないのか、と思います。もちろん、不景気のせいで失業者が増えたのもあります。

私は仕事探しよりも、とにかく、ビザ取得の方が苦勞しました。私はこの英国滞在11年の間に、ビザを6回も申請しなければなりません。 (1-学生ビザ1年(語学学校) / 2-学生ビザ1年(予備校) / 3-学生ビザ2年(大学。この大学は、本当は3年制ですが、日本の大学の単位を移行して2年生から入学したため、通ったのは2年) / 4-大学卒業生1年労働スキームビザ(フリーランス開始) / 5-パートナービザ(結婚しなくてもパートナーと同居証拠2年分提出すれば取得できるビザ) / 6-永住権(パートナービザを2年間所有していて、まだパートナーと同居している証拠があれば、永住権申請の権利が得られる)。という流れで、私は永住権を取得しました。永住権申請にあたって、そろえなければならない書類は膨大でした。知り合い、卒業校、働き先の人から、推薦状、証明書などの手紙をたくさんの人に書いてもらい、周りの方々には大変お世話になりました。この恩は一生忘れま

せん。

一番大変だったのが、毎回、ビザを申請するたびに支払わなければならない申請料。申請料はざっと以下のとおりです：学生ビザ(ビザの有効期限に関係なく、一回の申請料) = 約7万円~14万円、パートナービザ = 約13万円、永住権 = 約14~19万円です。授業料：語学学校1年 = 約20~100万円(ピンキリ)、予備校 = 約23万円、大学 = 約170~200万円。つまり、ビザだけで70万、学費で400万円近く、イギリスで投資したわけです。家賃もピンキリですが、2~4人でフラットシェアをすると、1人当たりガス光熱費を入れて1ヶ月約6~10万円(フラットシェアは、1件の家、またはフラットを何人かで借り、個人の寝室はあって、キッチン風呂トイレをフラットメイトとシェアする住み方で、最近では日本でも主流のようですね)。一人暮らしをしたい場合は、エリアとサイズにもよりますが、1DKで1ヶ月約13万円~25万円です。家に住みたくない人、手が出ない人は、運河にボートを買って、ボートで暮らしています。ボートに住めば、住宅税も取られないし、毎週、外の風景が変わるという面白みもあって、いずれはそういう生活もいいかもと思ったりしています。

